

# キャリア教育

学校教育においてキャリア教育を推進していくためには、キャリア教育の意義を理解するとともに、校長のリーダーシップのもと、学校経営計画にキャリア教育の推進を位置付ける必要がある。

また、キャリア教育は各学校段階における系統的・発展的な取組が不可欠なことから、接続する学校間の「つながり」を密にすることが重要である。

### 1 キャリア教育が求められる背景とその基本的な考え方

#### (1) キャリア教育が求められる背景

我が国にとって人材育成が経済・社会の根幹を支えるものであるということを踏まえ、教育が何をなさねばならないかを考えるとき、改めてキャリア教育の視点から教育の在り方を見直す必要がある。この点については、平成23年1月の中央教育審議会答申「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」（以下「答申」という）の中で提言されている。「答申」では、キャリア教育が求められる背景として、次のような状況や課題を挙げている。

【学校から社会・職業への移行をめぐる様々な課題】

- (1) 産業構造や就業構造の変化
  - ① 第三次産業、専門的・技術的職業従事者等の増加
  - ② 新卒一括採用の課題、非正規雇用の拡大
- (2) 職業に関する教育に対する認識
  - ① 社会全体の問題として、職業に関する教育についての認識が不足
  - ② 中学校の進路指導が、将来の職業生活等を見据えていない実態や、高等学校の進路指導も選抜制の強い大学への進学に偏る傾向
- (3) 子供・若者の変化
  - ① 子供たちの成長・発達上の課題
  - ② 高等教育進学率の上昇に伴う課題
  - ③ 中途退学者や無業者などへの対策

#### (2) キャリア教育とは

「答申」では、「キャリア教育」と「職業教育」の定義を明らかにするとともに、キャリア教育と職業教育について次のように述べている。

**「キャリア教育」とは**、「一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育」

**「職業教育」とは**、「一定又は特定の職業に従事するために必要な知識、技能、能力や態度を育てる教育」

参考：平成23年1月31日 文部科学省 中央教育審議会  
「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」（答申）

### (3) キャリア教育の基本的な方向性

「答申」には、「キャリア教育は、キャリアが子ども・若者の発達の段階やその発達課題の達成と深く関わりながら段階を追って発達していくことを踏まえ、幼児期の教育から高等教育に至るまで体系的に進めることが必要である。」と示されている。そして、「基礎的・汎用的能力などを子どもたちに確実に育成し、社会・職業との関連を重視し、実践的・体験的な活動を充実していくことが必要である。」と示されている。

このように、キャリア教育の推進に当たっては、幼児児童生徒の全人的な成長・発達を促す視点に立ち、各領域の関連する諸活動を体系化して、計画的・組織的に実施することが大切であるといえる。

## 2 キャリア教育の進め方

### (1) キャリア教育に取り組む上での基本的な考え方

キャリア教育は、幼児期の教育や義務教育の段階から体系的に各学校段階の取組を考えていくことが重要である。そして、後期中等教育を終了するまでには、生涯にわたる多様なキャリア形成に共通した能力や態度を身に付けさせるとともに、これらの能力や態度の育成を通じて、とりわけ勤労観・職業観を自ら形成・確立できる幼児児童生徒の育成を目標とすることが必要である。

### (2) キャリア教育を推進するために

キャリア教育のねらいを達成するためには、キャリア教育推進のために協働できる組織や体制作りが必要である。そのためには、キャリア教育を教育課程に位置付け、関連する諸活動を体系化し、教育活動全体を通して組織的・計画的に進めることが大切である。体制作りには、例えば、キャリア教育の進捗状況をチェックシートで確認することから始めてみる方法があり、次のような項目が考えられる。

<b>Plan</b> 園・学校や幼児児童生徒の現状を把握し、目標を立て、指導計画をつくる	目標の設定	キャリア教育の目標（キャリア教育を通して身に付けさせたい力や、目指す幼児児童生徒像）をどの程度定めているか
	指導計画の作成	キャリア教育の指導計画（全体計画や年間指導計画）の作成はどの程度進んでいるか
	指導計画の活用	キャリア教育の指導計画はどの程度活用されているか
<b>Do</b> 教育活動を展開し、フォローアップや修正を行う	教育活動全体を通じた実践	教育活動全体を通じたキャリア教育の取組についてどの程度意識されているか
	体験的なキャリア教育の実践	体験的なキャリア教育（社会人講話・職場見学・職場体験活動・インターンシップなど）について、計画的に実践しているか
	家庭や地域社会との連携	地域の教育力を生かしたキャリア教育の取組はどの程度進んでいるか
<b>Check</b> 取組の目的に応じて幼児児童生徒の変化をとらえる	幼児児童生徒の成長・変容の把握	キャリア教育を通じた児童生徒の成長や変容をどのように見取っているか
	実践の振り返りと検証	キャリア教育の取組に関する振り返りや評価をどの程度実施しているか
	学校評価との関連	学校評価（自己評価・学校関係者評価）にキャリア教育は位置付けているか
<b>Action</b> 導き出された新たな課題を踏まえて生かす	指導計画の改善	キャリア教育の指導計画の見直しはどの程度実施しているか
	園・校内研修の充実	キャリア教育に関する校内研修はどの程度実施しているか
	園・校内組織の改善	キャリア教育に関わる校内組織の改善はどの程度進んでいるか

### (3) 発達の段階に応じたキャリア教育の推進のポイント

<b>幼稚園，幼稚部</b> 人間関係基盤形成の時期	○ 計画的に環境を構成し、遊びを中心とした生活を通して体験を重ねるように、一人一人に応じた総合的な指導を通して、自発的・主体的な活動を促すことが重要である。
<b>小学校，小学部</b> 進路の探索・選択にかかる基盤形成の時期	○ 社会生活の中での自らの役割や、働くこと、夢を持つことの大切さの理解、興味・関心の幅の拡大、自己及び他者への積極的関心の形成等、社会性、自主性・自律性、関心・意欲等を養うことが重要である。
<b>中学校，中学部</b> 現実的探索と暫定的選択の時期	○ 社会における自らの役割や将来の生き方・働き方等についてしっかりと考えさせるとともに、目標を立てて計画的に取り組む態度を、体験を通じてその重要性について理解を深めさせつつ育成し、進路の選択・決定へと導くことが重要である。
<b>高等学校，高等部</b> 現実的探索・試行と社会的移行準備の時期	○ 生涯にわたる多様なキャリア形成に共通して必要な能力や態度の育成と、これらの育成を通じた勤労観・職業観等の価値観の自らの形成・確立を目標として設定することが重要である。

参考：平成 23 年 1 月 31 日 文部科学省 中央教育審議会「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」（答申）

### (4) 各学校段階における系統的・発展的な取組の工夫

系統的・発展的にキャリア教育に取り組むためには、各学校段階で育成を目指す「能力・態度」の相互の理解が不可欠である。そして、それらが系統的に再構成されて、それぞれの学校段階での発展的な取組が可能となると考えられる。

## 3 キャリア教育を推進するための具体的な取組

今日の急激な社会変化や幼児児童生徒の発達上の課題を考えると、発達段階に応じた地道な取組を積み上げ、働くこと・生きることへの意欲や前向きな態度、自立意識や目的意識等を培い、社会人・職業人として必要な基礎的・基本的な資質や能力を身に付けさせることが極めて重要であるといえる。

本県においては、現在、次のような内容に取り組んでいる。

#### 学校外の教育資源を活用したシステムづくり

- **キャリア・スタート・ウィークの継続**
  - 実施内容
    - ・ 5 日間以上の職場体験の実施
    - ・ 職場体験を推進するためのシステムづくり
    - ・ キャリア・アドバイザーの活用 など
  - 主な成果
    - ・ 働くことの尊さや仕事に対する誇り、世の中での役割等の認識が深まった。
    - ・ 学校で学んでいることの大切さに気付くとともに、学校の中で自分の役割を責任をもって果たそうとする姿が見られるようになった。
    - ・ 職場で体験したことを家庭で話すことが多くなり、保護者にとってもコミュニケーションを図るよい機会になった。

#### 発達段階に応じた系統的なキャリア教育の推進

- **わたしのキャリアノート～夢のスケッチブック**
  - キャリア教育を充実させるためには、小学校、中学校、高等学校等が組織的・系統的に、児童生徒一人一人のキャリア発達を促進させる取組を推進することが必要である。そのため、県教育委員会では「わたしのキャリアノート～夢のスケッチブック」を作成し、平成20年12月に全公立学校に配付した。平成21年度から県内の全公立学校で活用している。
    - **キャリアノートの持ち上がりについて**
      - ・ 小学校から、中学校へキャリアノートを持ち上がる予定の学校割合・・・92.0%
      - ・ 中学校から、高等学校へキャリアノートを持ち上がる予定の学校割合・・・98.3%  
(平成 29 年 2 月 県教育委員会とりまとめ)
      - ・ 高等学校が、中学校(中学生)からキャリアノートを受け取った割合・・・68.7%  
(平成 29 年 6 月 県教育委員会調査)

参考HP：ホットライン教育ひろしま 「キャリア教育の推進～キャリア教育実践の手引き～」

#### 4 キャリア教育の視点に立った進路指導の充実

進路指導は、生徒が自らの生き方を考え、将来に対する目的意識をもち、自らの意思と責任で進路を選択決定する能力・態度を身に付けることができるよう指導・援助する生き方の指導であり、キャリア教育の中核をなしている。

##### (1) 生徒一人一人の心に寄り添う進路指導の在り方

生徒一人一人が自分の個性や適性を理解し、将来の夢や職業を思い描きながら主体的に進路を選択していくために、教職員は生徒の発達段階の特徴を十分に理解する必要がある。生徒の変容を敏感に感じ取り、生徒が抱える不安や悩みなどを積極的に受け止め、生徒理解を深めながら、キャリア教育の視点に立って指導・援助することが重要である。そのため、各学校においては、学校の教育活動全体を通じて、入学から卒業まで、系統的、計画的、組織的に進路指導を推進していく必要がある。

##### (2) 組織的な進路指導の推進

学校の教育活動全体を通じて、進路指導を効果的に進めるためには、進路指導主事を中心とした進路指導部を校務運営組織に位置付け、組織的な進路指導体制を確立することが必要である。進路指導主事は、自らの職務を自覚し、校長の方針の下、各主任、学級担任等と連携を密にし、リーダーシップを発揮して進路指導部を機能させ、組織的な進路指導を実施できるよう、マネジメントする必要がある。

##### (3) キャリア・カウンセリングの充実

キャリア・カウンセリングとは、生徒が自らの意思と責任で進路を選択できるように、個別又はグループ別に行う指導・援助であり、これを充実させるためには、日頃から生徒の様子を観察し、一人一人の考えを受け止めて、生徒との信頼関係をつくることが大切である。また、進学や就職に関わって行われる相談活動を「進路相談」と呼ぶが、進路相談は、卒業を控えた学年だけで行うのではなく、キャリア・カウンセリングの視点を踏まえ、入学時から計画的かつ継続的に実施される必要がある。とりわけ、進路選択に関する面談を行う際は、生徒が自らの可能性を発見し、自己実現に向けて更なる意欲を喚起できるよう、生徒のプライバシーに配慮した場所の確保などに十分留意して実施する必要がある。また、個人情報などの個人情報情報の保管・管理には十分留意するとともに、担任等が変わる際には、引き継ぎを確実にすることが重要である。

##### (4) 進学及び就職等に係る指導の在り方

###### ア 家庭・保護者、教育委員会との連携

日頃から家庭・保護者、教育委員会との連携を密に進路指導を進めることが大切である。特に、推薦基準等の進路指導上の重要事項については、推薦基準等を明確にし、運用のルールも含めて全教職員で共有するとともに、生徒及び家庭・保護者が十分に理解できるよう、入学時から、学年集会や保護者説明会等を通じて、丁寧に説明を行うことが求められる。

###### イ 情報管理の徹底

進路決定において扱う記録は、速やかに作成、保管するとともに、校長を始めとした管理職及び各主任等による記録の正誤等の確認を行うなど、情報管理を徹底する必要がある。また、担任が変わる際等、必要に応じて引き継ぎを確実にを行うほか、校内の各種会議や、進路指導上の重要な指導事項に係る記録についても同様に、情報管理の徹底を図ることが必要である。

###### ウ 就職に係る公共職業安定所（ハローワーク）等との連携

就職を希望する生徒に対しては、公共職業安定所（ハローワーク）等と連携を図り、指導・援助を実施していくことが必要である。

###### エ 卒業時に進路が決定しない生徒への指導

卒業時に進路が決定しない生徒については、卒業後に連絡がつきにくくなることも考えられる。そのため、在学時から、卒業後も継続的に連携することの大切さや、その方法について、保護者も交えて確認しておく必要がある。